

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービス みんなの森		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 24日		～ 令和 8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 大きなホールと複数の発達支援室を有し、障害特性に応じた環境の配慮や多様性のある活動が可能となっています。 天候により屋外で遊べない日でも、ホールで走り回れる鬼ごっこやボール遊びなど、大声で笑ったり身体を思い切り動かしたりできる活動スペースが確保されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童が興味を持ち、安心して過ごせる安全性を確保した環境づくりに心掛けています。 作業や学習がしやすい個室を用意したり、備品を整備したり、不要なものを取り除いたり、と個々の特性に合わせた配慮をしています。 集中力を養う「静」の活動と、体力・体感を鍛える「動」の遊びを組合せ、メリハリのあるプログラムに取り組んでいます。 ホールにソファを設置し、自由な体勢で過ごせる居心地の良い「くつろぎ空間」を取り入れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数が増えた場合にも対応できるよう居室のスペースを区切り、効率よく個別対応できる環境づくりに努めます。 「活動の部屋」「リラクスの部屋」「おもちゃの部屋」「楽器の部屋」など、活動や用途に応じた空間を整えます。
2	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童の興味・関心ごとや特性を考慮し、多種多様なプログラムを提供し、一人ひとりが自己選択できる支援を心掛け、生活習慣定着に向け、見える化と視覚支援に努めています。 障害児者施設での実務経験を兼ね備えた有資格者により、一貫した活動プログラムを展開するとともに、遊びや学習を通して柔軟性をもった取り組みをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードや写真、文字などを活用してわかりやすく提示することで、利用児童の不安やストレスが軽減できるよう努めています。また、自己選択の手段として貸出カードを活用しています。 活動プログラムの固定化を防ぐ工夫として、利用児童のニーズと個性を考慮した定期的な見直しをおこなうとともに、学校での様子を共有する中で、その日の利用児童の状態から、プログラムの基盤は変更せず、課題内容を興味や意欲等に合わせて柔軟に調整しています。 	<ul style="list-style-type: none"> その場所で行う活動を紐付けていきます。 利用児童の主となる担当者を配置し、振り返りと改善から新しい挑戦や成長の機会を提供し、次のステップへ繋げるよう体制を整えていきます。 一人ひとりの利用児童の特性に配慮した取り組みを継続するとともに、場面を捉え、複数の利用児童と一緒に活動しながら社会性を学び、周りの人と関わる力を育むなど、個別と集団の双方をバランス良く取り入れた療育を提供してまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> 当法人は、放課後等デイサービス以外に、障害者支援施設、福祉型障害児入所施設、グループホーム(日中型/介護包括型)、相談支援事業所など多事業所を有し、将来の障害福祉サービス移行についても、保護者の方と情報を共有し、意見交換しながら一人ひとりの課題の検討を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校との情報共有、連絡調整のもと、放課後等デイサービスと相談支援事業所で、利用児童が適切な支援を受けるために、連携・補完しながら相互関係を保っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションを密にして、利用児童の将来の進路に向け、面談や体験活動を通じて、適正な生活スキルを高める準備を進めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 自然と触れ合える恵まれた環境であるため、積極的に散歩を活動に取り入れています。しかしながら、地域住民との交流や他の児童との繋がる機会の少なさを感じています。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館、公共団体運営の広場、店舗など、事業所から離れているため、移動手段として車を使用することが必須となり、土曜日や学校休業日での活動となってしまいます。 情報発信が不十分であり、事業所の存在や取り組み等の認知に至っていないと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の児童と交流する機会を増やすため、地域で活動している放課後児童クラブとの関係性を深め、互いを認め合う関係作りの促進に取り組んでいきます。 屋外活動を積極的に取り入れ、散歩や広場での遊びを通じて、地域住民や他の児童と挨拶を交わすことで、顔見知りの関係になれるよう努めます。 関係機関へのアプローチや情報発信をおこなうとともに、日常的な交流や行事への参加を進めます。
2	<ul style="list-style-type: none"> 家族等が参加できる研修や、保護者同士が交流できる機会を設ける必要性を感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> 開所して間もない事業所のため利用児童も少なく、季節の行事等を通じて保護者の集いを設けてきましたが、研修案内や保護者同士が情報交換できる場の調整が出来ていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体が開催するペアレント・プログラム研修など、保護者に情報提供するとともに、職員も研修に参加することで実施方法やノウハウを習得していく機会を設けます。 保護者同士の交流ネットワークを作り、定期的な交流機会を設けていきます。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森		公表日	令和8年 3月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・大きなホールがあることで、身体を動かして遊べるような運動やゲームなどを遊びに取り入れています。 ・十分なスペースが確保できています。 ・利用児童によっては、スペースが広すぎるため、個々の特性に合わせた部屋を提供しています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2	・利用児童の状況に合わせ、マンツーマンでの対応をおこなっています。	・通常の配置基準に加えて、加配保育士や児童指導員を配置できる体制が確保できると良いと思います。 ・急遽対応にも、ゆとりをもてる人員配置を検討していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・絵カードや写真、文字などの視覚支援を活用して、わかりやすく提示していることで、不安やストレスが軽減されています。 ・建物全てバリアフリー化となっています。 ・ホワイトボードを活用して、一日の流れを提示しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	・徹底掃除を毎週月曜日に設け、衛生管理を維持し、清潔を心掛けています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・個室（洋室、和室）が6部屋あることで、その時の利用児童の状態や様子に応じて、個室の利用にて対応しています。 ・環境への不応児に対して、作業や学習が出来るよう備品を整備しています。 ・自由に楽器（ピアノ、ドラム、ギター等）が使えるようになっています。 ・利用児童が部屋を選択することが可能になっています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1		・令和7年4月開所のため参画には至っておらず、管理者に任せきりにしてしまっている現状であるため、今後の課題として取り組んでいきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	・評価表による保護者の意向を職員会議で話し合い、今年度の支援の振り返りを行いました。	・今後とも保護者の方々のご意見や意向を、支援の向上に繋げていきたいと考えます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	・振り返りの機会として、職員同士で意見交換をしたり、毎月の職員会議で議題にしたりと、話し合う場が設けられています。 ・当日の利用児童受入前に、打ち合わせ時間を設けています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		・第三者評価受審について、今後検討を進めてまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	・法人内での研修や事業所研修に加え、外部研修にも参加するなど、支援の質の向上に努めています。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	・法人で発行している『ふれあい新聞』に掲載し公表している。 ・保護者全員に支援プログラムを配布し、説明をする他、事業所玄関、管理事務室に掲示しています。	・法人HPの公表に至っていません。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	・利用児童の様子観察、支援日誌から抽出しアセスメントを行っています。 ・保護者より要望を徴収し、計画作成をしています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	・計画作成会議、モニタリングを行い、スタッフ間で意見交換し、理解のもと折り合わせをしています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	・サービス担当者会議へ参加し、利用児童の様子や目標達成度を共有しています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	・行動観察に重点をおいたインフォーマルなアセスメント優位を実行している状況です。	・標準化されたアセスメントツールの導入も視野に入れ、検討していきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森		公表日	令和8年 3月 14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	・具体的な到達目標を設定し、遊びや活動の中から、5領域と関連性を持った支援内容を設定しています。	・複数の領域が互いに作用し、5領域全てに繋がる、より具体的な支援内容を目指していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・児発管が中心となり、意見を出し合いながら、スタッフと協力してプログラムを立案しています。	・個々の特性に合わせた計画から、療育、運動、社会性向上など、引き続き育んでいきたいと考えています。 ・意見を出し合いながらプログラムを組み立てるだけでなく、記録や共有可能な形式に整理して行きます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・現状把握に重点をおき、飽きさせない新たな活動を積極的に取り入れています。 ・スモールステップを大事にして、成功体験の積み重ねから自己肯定感を高める支援を心掛けています。 ・その日の利用児童の状態に合わせ、活動プログラムを柔軟に変更しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・個別活動の比重が大きい現状ではあるが、状況に応じて無理なく集団活動への参加を心掛けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	・当日の勤務スタッフ全員で、受入前に共有事項として、支援内容、役割分担、流れや留意事項を確認し合う時間を設けています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	・毎日、その日の支援内容を、一人ひとり支援日誌に書き込んでいます。	・大きな問題がなければ支援日誌の確認のみとし、支援終了後に振り返りの時間を設けていきます。 ・課題として、積極的に情報を集め、統一した支援の提供を心掛けていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・支援日誌に、時間、支援内容、状況等、利用児童一人ひとりの様子を丁寧に記録し、ケース会議にて検証、改善をおこなっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・定期的に時間を設け、ケース会議にてモニタリングを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	・遊びや体験を通して成功体験を積み重ね、自己肯定感を育んでいます。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	・日常的に選んだり決めたりする機会として、選択カードを使用しています。また、利用児童の興味関心に寄り添い、気持ちを受容することを心掛けています。 ・写真カードを利用して、利用児童が要望を伝えられるような環境づくりをしています。 ・カテゴリ毎に取り出しやすい玩具を収納しており、『かかしちちょう（ファイル）』を活用して、自ら選んで遊びに入れるよう、視覚的にわかりやすい工夫をしています。	
関係機関や保護者との	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	・複数名の参加が可能となるよう調整を行っています。	・引き続き、子どもたちの現状を適切に情報共有し、よりよい支援の提供に繋げていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		・関係機関との積極的な連携には至っていないことから、体制整備を進めています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	・保護者に承諾を頂き、学校からの配布物や連絡ノートを確認し、情報を共有しています。 ・機会を捉え、学校のHPを確認しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めているか。	該当児童なし			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	該当児童なし			
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5		・必要に応じて、検討していきます。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森		公表日	令和8年 3月 14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	・社会福祉協議会が運営している憩いの広場(だれでも広場)を利用して遊びに取り入れています。	・地域の子ども達と、ふれあう機会をつくっていきたく考えます。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		・地域における課題を共有し、関係機関の連携を密にしているよう、積極的に参加していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・連絡ノートへの記載や利用児童引き渡し時間を活用し、積極的に保護者とコミュニケーションをとっています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		・研修がしやすい環境であるため、今後企画していけるよう検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	・利用契約を締結する際、保護者全員に丁寧に説明をしています。	・支援プログラムの内容について、説明不十分にならぬよう、今後とも説明の場を設ける機会を検討していきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・保護者の意向を聴取し作成にあたっては、行動観察を通して、子どもの言葉にならない声にも耳を傾ける努力をしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	・保護者に対面で内容を説明し、書面にて同意と署名をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	・連絡ノートを活用して相談に応じるとともに、引き渡し時等に話をする機会を設けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	・季節の行事を通して、利用児童や保護者同士での交流の機会を設けています。	・現在、父母の会の活動や、きょうだい同士のイベント開催など設けられていません。保護者の方のご意見を聞きながら、今後の検討課題といたします。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	・開所以来、苦情の申し出はないが、今後も保護者とのコミュニケーションを密にした対応を心掛けていきます。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・放課後等デイサービスみんなの森より、保護者向けおたより『みんなもり』を月1~2回発行し、活動内容や情報を発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	・利用児童の個人情報に係る書類等は、鍵のかかる机及びロッカーに保管して、取扱いについてはスタッフ同士、注意を促し合っています。 ・守秘義務の徹底はなされています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	・利用児童については、視覚的にわかる形でのスケジュール提示やワークシステムを取り入れています。 ・送迎時や連絡ノートを通して保護者と情報を共有しています。 ・傾聴と共感を心掛けた丁寧な対応と、意思疎通を大事にしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	・防災(消火)訓練への参加など、近隣の方に手渡して案内状を配っています。	・今後とも事業所の行事等を通じて、顔見知りの関係づくりに努めています。
非常	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	・形式知化することで、事業所全体で知識を共有、活用しています。	・保護者への周知方法を検討していきます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	・BCP策定、定期的な見直しのもと、必要な研修及び訓練を実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	・保護者に記入頂いた利用者カード(服薬含む)に基づき、状況確認をしています。	・救急要請時チェックシート等の導入を検討していきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	該当児童なし			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	・安全計画策定のもと、点検、指導、訓練・研修、再発防止策の徹底等、安全確保に係る取り組みを行っています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森				公表日	令和8年 3月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
時 等 の 対 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	・保護者が集う機会を捉え、事業所の安全計画を保護者に説明し配布しています。 ・避難訓練実施状況など、連絡ノートに記載する他、保護者向けおたよりにて通知しています。	・保護者との安全計画の共有など、周知方法について検討していきます。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2	・支援日誌への記載から、スタッフ間で共有しています。 ・共有したのち、時間を置かず再発防止策に努めています。	・事故を未然に防ぐための重要な情報源として、特化した様式を整備し、事業所内で共有・分析していきます。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・法人研修、事業所内研修を実施後、レポート作成にて研修内容を振り返り、理解を深めています。		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	・虐待防止委員会（身体拘束等適正化委員会）にて、指針、取扱要領をスタッフ全員で確認し、身体拘束についての根拠を掘り、対応研修をおこなっています。	・万が一の場合には、組織的に十分に協議し、適切な手順を踏んで行う等、慎重に進めるための研修を続けていきます。	

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森		公表日		令和 8年 3月 14日		
				利用児童数	5名	回収数	5名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4			1	・契約時の他、変更があった場合にも丁寧な説明を心掛けていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5				
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1			・新たな活動を積極的に取り入れ、その日の利用児童の状態から、柔軟に活動プログラムを変更しております。
保護者 への 説明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	1	2	・市内の放課後児童クラブの子ども達と交流する機会を設けています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	2		1	・『保護者の集い』を通じて、情報交換の機会を設けてまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	5				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2	2		1	・引き渡し時や連絡ノート活用以外にも、面談は十分な時間を取って話せる大事な機会として捉えています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4			1	・傾聴を基盤として、日常的な成長や変化を共有してまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2		2	・現在、父母の会の活動や、きょうだい同士のイベント開催など設けられていません。保護者の方のご意見を聞きながら、今後の検討課題といたします。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5				
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	4	1			・定期的に広報誌『みんもり』の発行をしておりますが、SNS等の活用についても体制の構築を検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4	1			・個人情報の取扱については、職員行動規範のもと、誠実に遵守してまいります。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人赤城会 放課後等デイサービスみんなの森

公表日 令和 8年 3月 14日

利用児童数 5名 回収数 5名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			1		・各マニュアルが策定され、定期的な研修及び訓練を行っています。また、事業所内に備え付けており、いつでも閲覧できる環境となっています。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			1		・BCP策定のもと、定期的な研修及び訓練を行っています。 ・積極的に避難訓練（火災・地震）を利用児童とともに実施しております。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	5					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	5					
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	4			1	・いつも『みんなの森』に行くのを楽しみにしています。何かがあると『みんな・な・の・も・り』と発語し、職員さんに教える、伝える、と言っています。	・楽しい居場所となるよう、良好な関係作りに努めてまいります。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	3	1		1		・常に笑顔で接しながら、安心して過ごせる居場所作りを心掛けております。
	29 事業所の支援に満足していますか。	5				・本人にとって生活の一部となっています。 ・感謝しかありません。	